

—スタッフ紹介—

役 職	スタッフ名
部 長	今北 正美
医 長	伊東 良太

—概要—

2008年に「病理診断科」が広告可能な標榜科名として認められ、医療法施行令第3条の2に「病理診断科」の名称が付け加えられた。当院では、2014年に病理診断科を標榜したが、実態としては、検査科の一部門として運営されていた。2019年4月より、病理診断科は検査科とは分離され、独立した診療科となった。2020年4月より、医師1名が増員され、医師2名で業務を行っている。

病理診断科の業務は、細胞診断、生検組織診断、手術で摘出された臓器・組織の診断、手術中の迅速診断および病理解剖からなっており、診断を確定するためないしは最終診断として「病理診断」は大きな役割を果たしている。

—実績—

年	2019	2020	2021	2022
組織診	5,156	4,416	4,632	4,729
術中迅速組織診	205	204	196	175
細胞診	4,862	4,844	4,712	4,539
術中迅速細胞診	81	101	106	77
病理解剖	10	9	9	8

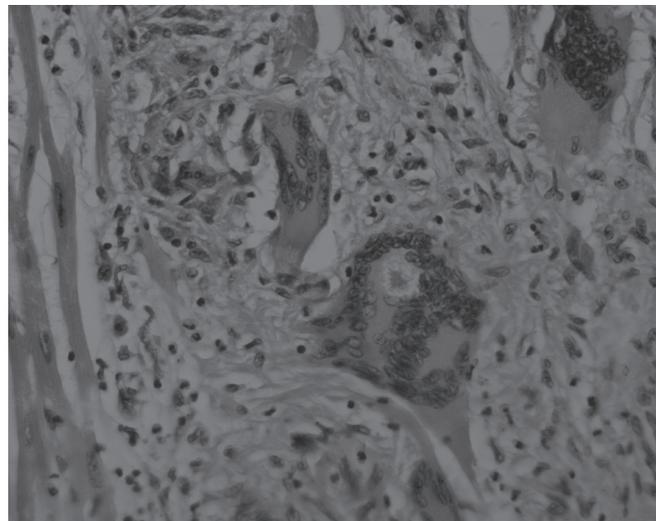
上記に直近4年の実績を掲載した。組織診は年5%程度ずつ右肩上がりに件数が増加していたが、昨年度および一昨年度はコロナの影響で減少した。今年度はコロナ前にはおよばないが、増加を示した。術中迅速組織診と細胞診は250件/年近く実施されている。細胞診は、当院産婦人科の特殊性から件数は減少傾向にある。病理解剖は減少しており、10件/年以上を維持すべく努力しているが、3年連続して、10件には達していない。

—今年度の成果と反省点—

組織診件数は4,000件/年、術中迅速診断も200件/年を超えていることは、当院で高度な医療が実践されていることの反映と考えられる。病理解剖は年々遺族の承諾を得るのが難しくなっているが、関係各位の尽力により10件/年以上を目標としている。今年度も残念ながら2例目標に及ばなかった。

—来年度への抱負—

より質の高い診断を目指して研鑽する。他科との症例検討会を継続開催する。地域の病院との連携構築も想定されている。



心サルコイドーシスの画像